

知事記者会見の概要

日 時：令和8年9月11日(金) 14:00～14:32

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和8年度9月補正予算案の概要について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：朝日・荘日・NHK>

☆発表事項

知事

皆様、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

では、「令和 8 年度 9 月補正予算案の概要」について、ご説明申し上げます。お手元の資料「令和 8 年度 9 月補正予算案の概要」をご覧ください。

一般会計の 9 月補正予算額は、226 億 6,500 万円であります。この結果、9 月補正後の累計予算額は、7,284 億 4,700 万円となります。

今回の補正予算は、令和 8 年 7 月からの大雨被害への対応として、災害復旧関係事業を速やかに実施しますほか、次代を担う若者の教育や広域交通ネットワークの充実、産業経済や力強い農林水産業の振興・活性化、観光・交流人口の拡大など、未来志向の県づくりに向けた施策や、安全・安心な地域づくりに向けたクマ被害対策の推進など、更なる取組みを展開し、「生活経済対策・新生やまがた未来予算」を拡充するとともに、本県が直面する様々な課題に対応するものでございます。

では、9 月補正予算案に計上した主な事業について、順次ご説明いたします。

まず、「1 令和 8 年 7 月からの大雨被害への対応」についてです。本県では 7 月下旬に活発な梅雨前線の影響により、置賜地域や最上地域を中心に大雨となりました。防災気象情報の運用見直し後、本県では初めてとなるレベル 4 の大雨危険警報などが広範囲で複数回にわたって発表されました。

この雨により、道路、河川、農地などに大きな被害が及び、復旧等に必要な費用は約 69 億円と推計しております。

このたびの 9 月補正予算におきましては、既決予算により対応可能な公共土木施設や農地・農業用施設等の災害復旧工事等以外の、道路の路肩補修や倒木・土砂の撤去、河川の護岸の修繕等の費用を追加するものであります。

次に、「2 『生活経済対策・新生やまがた未来予算』の拡充」のうち、【県民のウェルビーイングの向上に向けた取組みの推進】として、1 つ目ですが、文部科学省の「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」に対し、本県から改革先導拠点校として 4 校を申請しておりますので、国庫補助の上限額である 62 億円を高等学校等教育改革促進基金に追加で積み立てるとともに、同基金を活用した改革先導拠点校の今年度の取組みの実施に係る経費として 6.6 億円を計上するものであります。

2 つ目ですが、7 月に閣議決定された政府の骨太の方針を受けて、国土交通省の令和 9 年度予算概算要求に「在来線の高速化」を促進するための支援の充実・強化が盛り込まれたことを踏まえ、「山形新幹線米沢トンネル（仮称）」の整備実現等に向けた調査を実施いたします。

次に、【県内経済の持続的な成長に向けた取組みの推進】として、1 つ目ですが、令和 8 年度地方財政計画において、都道府県における産業クラスターの形成・拡大や地場産業の付加価値向上と販路開拓を推進するため「地域未来基金費」が創設されたことを受け、本県に

「地域未来基金」を創設し、本年度の地方交付税措置相当額の 58 億 6 千 9 百万円を積み立てるものであります。

2 つ目ですが、今年の秋の新米の需要の創出・拡大に向けた緊急的な対策として、県と県内の米穀集荷・販売事業者、卸売業者等とが連携して県産米の販促キャンペーンや「雪若丸」を使用したフェアなどの取組みを展開してまいります。

3 つ目ですが、本県のアンテナショップについては、人口減少が進む中において、県外から本県に活力を呼び込めるよう、移住定住も見据えた関係人口・観光交流人口の拡大に向けて、首都圏における本県の魅力や情報の受発信の役割を担うとともに、本県産業の活性化にも寄与する拠点として機能強化を図るべく検討を進めてまいりました。

次期アンテナショップでは、これまでの物販・飲食にとどまらず、本県の観光やくらし、しごとなど多様な魅力の発信や、本県に行ってみたい、住んでみたいと思っただけのよう、来店者の興味・関心を高める体験活動や企業間交流など、新たな取組みに挑戦していく必要があり、その拠点にふさわしい場所として、東京都内日本橋の商業ビルを選定し、来年度中のオープンに向けて準備を進めていくことといたしました。

このたびの 9 月補正予算におきましては、本県に係る多様な相談ニーズに対応し、本県の魅力を総合的に案内するため、次期アンテナショップの窓口に配置する「やまがた AI コンシェルジュ（仮称）」に係るシステム導入経費や運営事業者の公募などを行う経費を追加するものであります。

4 つ目ですが、今年の 6 月、2028 年度前期の NHK 連続テレビ小説に、本県出身の歌人・医師である斎藤茂吉とその妻輝子（てるこ）を描く作品「ほんのモキチ」の制作が決定しました。

ドラマの制作決定を機に、あらためて郷土の偉人である文化人斎藤茂吉のゆかりの地等の情報を収集し、文化芸術の振興や観光誘客の拡大など、今後の施策展開の検討に活用していくとともに、小・中学生向けのデジタル副読本を作成いたします。

次に、【安全・安心な地域づくりに向けた取組みの推進】として、1 つ目ですが、ドクターカーの導入に向け、救命救急センター設置病院等を対象に、同乗する医師が使用する医療機器などの整備費を支援いたします。

続きまして、「クマ被害対策の推進」に係るものとして、2 つ目ですが、クマの個体数増加の抑制に向けた来年の春季捕獲について、熱感知カメラ搭載ドローンを活用した効率的・効果的な捕獲方法の試行等を含め、早期に準備を進めるものであります。

3 つ目ですが、クマの市街地出没対策や緊急銃猟に係る市町村への支援を増額するとともに、4 つ目ですが、人とクマのすみ分けを図るため、県が管理する西蔵王公園の境界部の樹木等を伐採し、緩衝帯を整備するための経費などを増額いたします。

次に、【物価高騰の影響を受ける事業者への支援】として、1 つ目ですが、燃料費の高止まりを受け、化石燃料への依存度を下げるため、タクシー事業者が EV 車やハイブリッド車などの次世代自動車を導入する際の費用の一部を支援いたします。

2つ目ですが、農業経営の拡大や生産の効率化に向けた農業用施設の整備や機械の導入など、農業者の前向きな投資を支援するため、低金利で貸付けを行う「農業近代化資金」の融資枠を拡大いたします。

3つ目ですが、省エネ対策、コスト削減等に取り組む農業水利施設に対し、電気料金高騰への支援を実施いたします。

資料をおめくりください。2枚目にまいります。

続きまして、「3 その他諸課題への対応等」としまして、

1つ目の、「新スポーツ施設の整備に向けた配置・周辺環境に係る調査検討」につきましては、建設候補地の検討に時間を要したことに伴い、次年度まで委託期間を要することから、繰越明許費を設定するものであります。

なお、今年の2月に、新スポーツ施設と新博物館の建設候補地を、「山形市桜町地内の旧県立中央病院跡地である『県民ふれあい広場』を含むエリア」とお示ししておりましたが、県の財政状況等を勘案し、県有地である「県民ふれあい広場」のみで新スポーツ施設を整備することとし、新博物館の建設候補地については改めて検討することといたします。

2つ目ですが、庄内空港緩衝緑地において松くい虫被害が急速に拡大していることから、早急に被害木の伐採処分を実施いたします。

3つ目ですが、県防災行政通信ネットワークの衛星通信システムの第3世代化のために必要な工事費やシステム改修経費について、アンテナの仕様変更やシステムの機能の追加などに伴い増額いたします。

4つ目と5つ目ですが、国庫補助基準額の改定等に伴い、放課後児童クラブの整備、運営等への支援及び一時預かり、延長保育等の地域の実情に応じた子育て支援を実施する市町村への支援を増額いたします。

6つ目ですが、地方交付税の算定基礎額の増額に伴い、民生委員・児童委員の活動等に係る支援を増額いたします。

7つ目ですが、介護報酬改定等の取扱いに準じ、軽費老人ホームにおける職員の処遇改善を図るための支援を実施いたします。

8つ目ですが、農繁期の異なる地域と連携して、外国人材を人手が必要な時期に合わせて各地域にリレーで派遣するトライアル雇用について、受入農家等の追加に伴い、派遣料及び受入環境の整備費に対する支援を増額いたします。

9つ目ですが、国庫補助事業の追加募集を受けて、市町村が実施する部活動の地域展開に向けたコーディネーターの配置や休日の地域クラブ活動への支援を増額いたします。

10番目ですが、老朽化により使用することができない県民の森のフィールドアスレチック施設を撤去いたします。

次に、「4 社会資本整備の着実な推進」として、

「(1) 土木公共事業」、「(2) 耕地公共事業」及び「(3) 国直轄事業費負担金」の増額につ

きましては、国庫の内示等を受けて所要の経費を追加するものであります。

以上が令和8年度9月補正予算案の概要であります。

よろしくお願いいたします。

☆フリー質問

記者

山形新聞稲村です。よろしくお願いいたします。全体的なこととして、今回の補正予算の編成に当たりまして、知事が最も重視した点、方向性などをお聞きできればと思います。

知事

今回の9月補正予算に盛り込んだ事業はいずれも重要な取組みであります。補正予算の規模としては、過去7番目の比較的大規模な予算となりましたけれども、その主な要因として、今年の7月からの大雨被害への対応約34億円や、基金の積立、高等学校等教育改革促進基金が62億円、そして地域未来基金、これが約59億円となっております。大雨被害の対応につきましては、私も被害現場に赴きその被害状況を確認しましたが、迅速に復旧に取り組むため、既決予算では対応できない事業費をこのたびの補正予算に盛り込んだところであります。

また、基金の積立により、今後の産業イノベーション人材の育成等による高校教育改革の推進や、産業集積の形成等に資する事業を着実に実施するための財源的な準備ができるものと考えております。

その他特徴的なものは、アンテナショップでありましたり、斎藤茂吉の魅力発信でありましたり、県産米の需要創出、緊急事業といったことがありますので、どれも本当に重要なものだなと思っています。ちょっと1点に絞るのは難しいかなと思います。

記者

あともう1点が、新スポーツ施設の整備に絡んで、今のご説明の中で、スポーツ施設のほうは進んでいくものと思われませんが、博物館の建設候補地をあらためて検討することになったかと思うのですが、これに対する知事の所感と、今後の対応方針などをお聞きできればと思います。

知事

今年の2月に建設候補地をお示ししましたけれども、その後山形美術館からの要望を受けまして、新博物館の建設候補地として山形市大手町エリアを検討したのですが、所有者の山形市におきまして、別の活用について検討していることが判明いたしました。また、今年の2月にお示ししていた、山形市桜町地内の旧県立中央病院跡地である県民ふれあい

広場を含むエリアにつきましては、県の財政状況等、さまざまな多額の出費があるというようなことになってまいりまして、そういったことを勘案して県有地である県民ふれあい広場のみでの整備をまず優先するというようなこととしたところでございます。

新スポーツ施設については、現在の県体育館・武道館、霞城公園内にありますけど、その撤去から供用開始までの空白期間というものを極力抑える、県民の皆様の利便性を確保するということで、予定通り県民ふれあい広場に新スポーツ施設は整備するというようにしたところであります。できることから早めに着実に進めるということにしたところでございます。新博物館に対する県民の皆様の関心も大変高かったと思うのですけれども、その建設候補地とか、県の財政状況といったこともいろいろ勘案しながら、そこはまたあらためて検討することとしたところですので、ご理解をお願いしたいと思います。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

次期アンテナショップの整備事業についてなのですが、移転先のほうが日本橋というところで、浅草にも非常に近くてインバウンドの方への訴えというところも非常に有効的なのかなという場所だと思うのですが、そういったインバウンドでしたり、アンテナショップに込める思いといいますか、どういったところに今後期待していくかというところをお伺いできればと思います。

知事

このアンテナショップということについては、移転先についてずっと検討してまいりました。調査して、物件を探してというようなことを続けてきたわけなんです。というのは、これまでは、物販と飲食だけでありまして、銀座というところは大変、立地環境としてはいい所だとは思っておりましたが、観光とか県の紹介というようなところでは、ちょっと行ってみると分かるんですが、2階のほんのちょっとした窓口しかなくて、そこは大変課題だなというふうに思っておりました。そして次第に、人口減少というようなことにもなってきますと、移住・定住といったことが、重要な要素になってきておりますので、総合的な情報の受発信の拠点として、飲食・物販ということも大事でありますけれども、それ以上に移住・定住、また仕事、暮らしといったことについても、また観光で交流人口も増やしていきたいというようなこともあって、そういったいろいろな事情でずっと物件を探しておりました。

具体的に、今まで立地環境や施設の条件というのを整理した内容として、人通りが多く、乗降者数の多い駅に隣接するなど、幅広い層にアプローチできる立地環境であることとか、多様な機能に対応できる面積と形状を有し、通りから視認性が高い施設であること、また、現店舗の顧客やアンテナショップ巡りをする層を確実に取り込めるエリアであることとい

った条件を整理したところです。なお、この条件と様々な情報を照らし合わせて、現店舗も含めて比較・検討を行ってまいりました。

この度の移転先については、これらの条件を満たし、関係人口や観光交流人口の拡大などに資する本県の情報の受発信拠点としてふさわしい施設であると総合的に判断したところであります。

日本橋といいますと、古き良き伝統に敬意を払いながらも、新しく生まれ変わろうとしているというところで、伝統と革新が共存しているエリアであります。この特徴は、まさに歴史と伝統があって新しいことにもチャレンジしていこうという山形県とも高い親和性があると考えました。また、日本橋では、「食」をテーマとした街づくりが進められておりまして、美味しいものを求める方が訪れるエリアとなっております。食という本県の大きな魅力をより活かすことができる、そういう場所であって、この場所で新たな取組みに挑戦していきたいと考えたところでございます。

記者さんのおっしゃったインバウンドについても、有利ではないかということでありまして、銀座もインバウンドもあったかとは思いますが、銀座、日本橋辺りは、やはりそういういいエリアなのかなというふうに思ったところでございます。

記者

読売新聞の柴田といいます。

新スポーツ施設と新博物館について改めてお聞きしたいんですけど、事業の当初の計画としては、文化とスポーツの融合として、新たな交流人口を生みたいということで、計画を進めていたと思うんですけど、今回、新博物館の方が建設候補地が未定となって、その融合が一旦白紙になったというか、分からない状況になったと思うんですけど、それについてはどうお考えですか。

知事

新スポーツ施設ということについては、これまで通りといいますか、あのエリアでということになりますけれども、いかんせん、山形市さんの方は、道路向い側の方は別の持ち方が決まっているというようにお話を聞きまして、やはりそこが場所も含めて、また改めて考えなければならないというふうになったところであります。博物館については、今のところ、山形市さんと一緒になってやるというようなことではないんですけども、町づくりの一環として、山形市さんとは話は続けていきたいと思ってますけれども、とりあえずスポーツ難民にならないように、現在の施設を撤去して新しいスポーツ施設ができるまでの間、スポーツができないというようなことにならないように、できるところをとにかく進めていこうというふうに、県と市で話し合ったところでございます。

記者

新博物館が新スポーツ施設と同じエリアに建てるのが、現状の計画だと難しくなっていると思うんですけど、それについてはいかがですか。

知事

道路もはさんであのエリア一体というふうに考えていたので、現時点ではやはり、これまでのような想定というのはちょっと難しくなったかなと思いますけれども、まだ絶対できないというようなことでもないといえますか、いろんなエリアの土地がもし手に入ったりしたら、また別の建て方といえますか、高層のとか、そんなことはあんまりないかもしれませんが、いろんなことはあるので、現時点で何とも言えないですね。新スポーツ施設は、あそこにきちんと作りますということで、山形市さんと一緒に作ります。両方利活用できるような体制でいきますけど、博物館については当初の予定通りにはなかなかいかないかな、というようなことしか現時点では申し上げられないです。財政的な状況もいろいろ出てまいりました。

記者

最後に、知事のご意向としては、今後も文化とスポーツの融合を図るために近いエリアで博物館を建てたいという思いがあるのか、その知事のご意向を聞いてもよろしいでしょうか。

知事

近いといっても、すぐ隣というようなことではなくて、例えば、山形市さんと相談していきますけれども、町づくりの一環ですから、山形市の中にいい場所があれば、また割合近いというようなことにはなると思いますが、美術館から近いかというともたそこは考えなきゃいけないですけども、逆に確かいろいろな御意見の中には、スポーツ施設と文化施設を必ずしも同じ所にする必要はあるのかというような御意見もあったとも聞いておりますので、そこは様々な方の御意見があるかと思っています。ただ、当初の予定としては、美術館もあって、あのエリアもいいねというようなことで考えていたんですけども、なかなか諸事情で改めて考え直すということに至ったところです。

記者

YTS の川口です。新博物館についてお伺いしたいんですけども、先ほど県民の関心も高いという知事の言葉もあったと思うんですけども、知事の考える新博物館の必要性と、あとのようなスピード感を持っていきたいかというようなことを教えていただけますでしょうか。

知事

新博物館というのは県民の皆さんにとって非常に重要なものだと思いますし、そこで大体山形県内のいろいろな自然が分かったり、また歴史的なことが分かったりというようなことで、そこに行けば山形県が分かるというようなところなのかなと思っておりますけれども、現在の博物館は、老朽化というようなこともありまして、また霞城公園の中から外に出なくてはいけないというようなこともありますので、両方考えて検討を始めたところでありましたけれども、私が考えるといいますか、検討会議でいろいろ検討もしていただいたりして、いろいろな考えがあるなと思いましたが、やはりたくさんの県内外の方々に来ていただけるような、山形を知りたい、また知って各地に行ってみたいと思っていただけるような、県民のアイデンティティの、それにも資すると同時にいろいろな県内外の方々から、交流といいますか、見学でありましたり、たくさんの方にご利用いただける、そういう集客施設にもなってほしいなというふうに思っています。

以上